

## 南極地域観測事業に関する今後の輸送体制について(案)

### 1. 現状及び経緯 ※後継船に関するスケジュール【別紙1】

- 南極地域観測に対する協力のために海上自衛隊が保有する
  - ①砕氷艦「しらせ」が 2034(R16)年に、②多用機ヘリ「CH-101」が 2033(R15)年頃に、それぞれ退役等により使用を終える予定。
- 後継船等の具体的な対応に着手する令和9年度概算要求までに、今後の輸送体制を決めておく必要があることから、両省で検討。

### 2. 検討に際しての考慮事項

- 海上自衛隊のリソースについて、任務等の活動量が増加する一方、少子化による募集対象者の人口減少等による、海上自衛官の定員割れが続いており、更なる見直しが必要。
- 極域や氷海航行にかかる技術の進展も踏まえた、国以外の主体による柔軟な運用の可能性。

### 3. 今後の輸送体制について【別紙2】

- 南極大陸の中で最もアクセスが困難な東南極にある昭和基地を拠点として、今後も観測等の事業を継続する観点から、
  - ・ 「しらせ」後継船の所有及び運用主体は、海洋研究開発機構(JAMSTEC)とし、ヘリの運用主体は国立極地研究所とする。
  - ・ 防衛省・自衛隊は、氷海航行や氷上輸送等に必要な海上自衛官の派遣等により、引き続き協力を行う。(※実施中核機関(実務の全体統括)は引き続き国立極地研究所)
- これにより、安全も確保しつつ、運用面での柔軟性等を向上させ、より一層、社会的要請に応える事業運営を目指す。

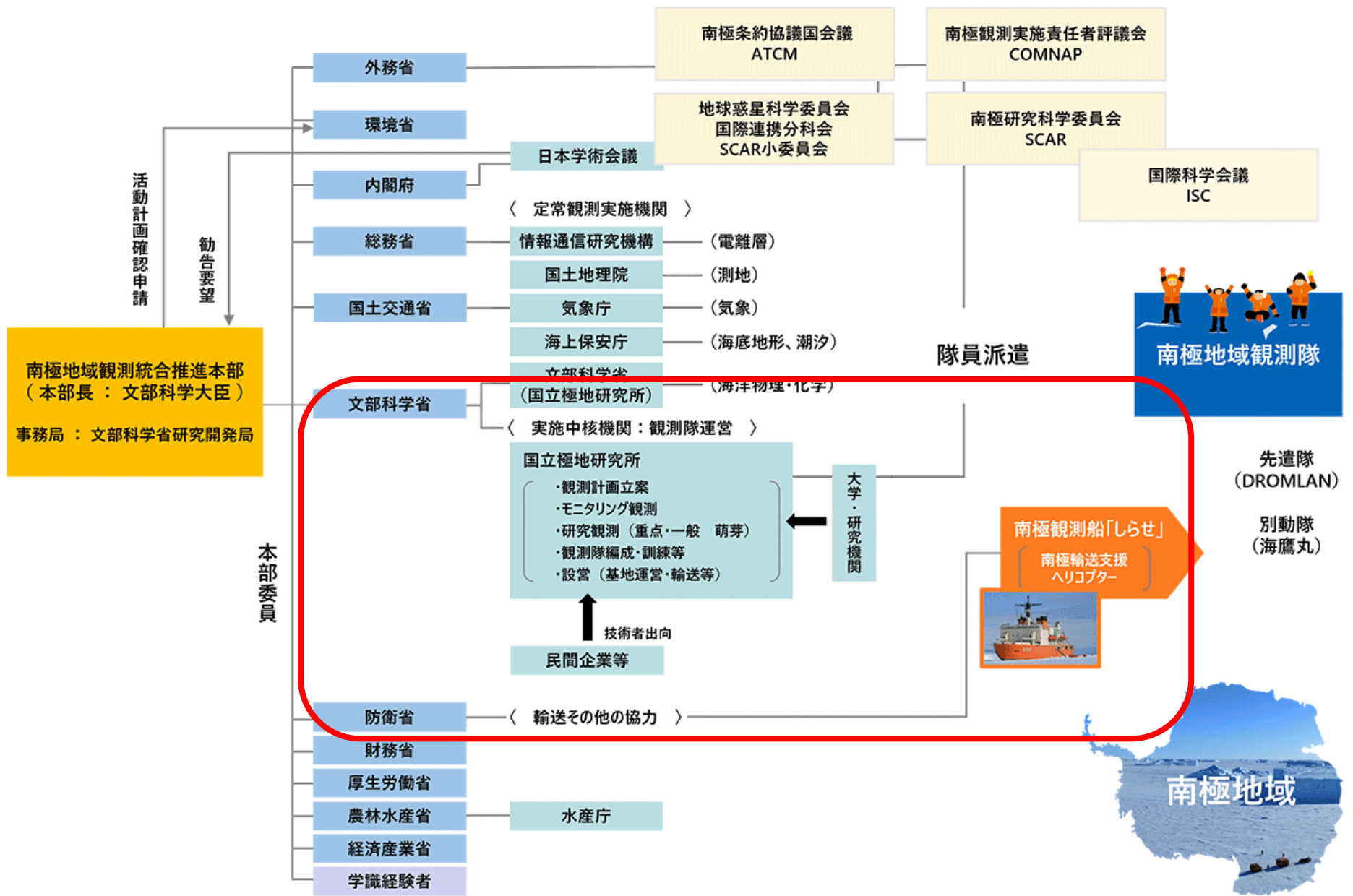
# しらせ後継船運用開始までのスケジュール（案）

参考資料1（別紙1）  
南極地域観測統合推進本部  
第2回次期輸送体制検討小委員会  
（令和8年5月8日）



※ 具体のスケジュールについては今後政府内で調整

# 南極地域観測事業実施体制【現行】



# 南極地域観測事業実施体制【しらせ後継船以降（輸送体制関係部分・案）】

